八幡事業所 Tel.Fax 672-7595
sawayaka@eagle.ocn.ne.jp
小倉事業所 Tel.Fax 647-3210
sawayakakokura@violin.ocn.ne.jp
HP:http://www.npo-sawayaka.net/

さわやか

2022年4月27日
第３０３号

発行者
特定非営利活動法人
通院介護センター
さわやか

北九州市障害者小規模共同作業所のヒアリングが無事に終了しました

四月十九日（火）北九州市役所本庁舎七階七十二会議室で、午前九時より小倉事業所、午前十時三十分より八幡事業所の北九州市障害者小規模共同作業所のヒアリングがありました。

このヒアリングは、障害者小規模共同作業所補助金等の令和三年度実績報告書及び令和四年度交付申請書を提出するものです。

マスクの着用と手指消毒等を徹底

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスクの着用と手指の消毒、部屋の換気及びソーシャルディスタンスを徹底して行われました。

昨年まで、新型コロナウイルスの感染が拡大し、福岡県をはじめ、全国各地で緊急事態宣言が発表されていました。

そのためヒアリングが中止されていました。

今年は、新型コロナウイルスの感染が落ちつきつつあるので、三年ぶりに行われました。

令和三年度から、担当になられた保健福祉局障害福祉企画課の遠藤京子障害者就労支援係長と東良美主任が監査を行いました。

令和三年度実績報告書については、元帳や全ての領収証、出勤簿などを丁寧に確認をしていただきました。

令和四年度交付申請書についても、事業計画書や予算書等を確認していただきました。

北九州市保健福祉局　障害福祉課
遠藤京子障害者就労支援係長（左）と
東　良美主任（右）

北九州の台所、旦過市場での大規模火災

四月十九日午前二時四〇分ごろ、北九州市小倉北区の旦過市場で起きた大規模火災が、発生しました。

旦過市場は一〇〇年の歴史を刻み、およそ一二〇の木造の店舗が密集していて、その中の約四〇店舗が被災しました。

その他にも煙の臭いや、放水によって営業の再開のめどが立たない店舗が多くあります。

再開発の計画が始まった矢先の火災でした。けが人がいなかったことが不幸中の幸いでした。

火災発生から約六十五時間後の二十一日午後七時三〇分ごろに鎮火しました。

被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い再開を待っています！

4月20日は郵政記念日！日本の郵便の歴史とは？

インターネットが普及したことで、ＳＮＳやメールでのやり取りが増え、手紙を出すことが減ったという人が多いのではないでしょうか。

しかし、インターネットが普及したのはここ二十年程度のことです。

その昔は、手紙をどのようにやり取りされていたのでしょうか？

今回は、郵政記念日や日本の郵便の歴史について紹介します。

「郵政」とは、郵便に関する行政のことで、郵便だけではなく、貯金や保険なども取り扱いも入ります。

「郵便」とは、郵便者を送り届ける制度のことです。

また、郵便物のことを「郵便」ということもあります。

「郵政記念日」は、明治四年（一九七一年）四月二十日に郵便制度が始まったことにちなむ記念日で、明治九年（一九三四年）に当時、郵便や通信を感覚する管轄だった逓信省（ていしんしょう）がこの日を「逓信記念日」に制定し、昭和二十五年（一九五〇年）に郵政記念日と改称して記念行事が、行われるようになりました。

日本の郵便の歴史

日本で最古の郵便（手紙）は、聖徳太子（五七四～六二二年）が隋へ送ったと言われています。

大化の改新（六四五年）の頃には「伝馬（てんま）」といって馬を使って、手紙などを運びました。

馬を乗り継ぐための施設や宿泊施設などが整備されました。

鎌倉時代（一一八五年～一三三三年）になると、「飛脚」が武士の間で用いられるようになりました。

飛脚とは、金銭や手紙などを運ぶ仕事に従事する人の事で、現在なら、歩くと二週間程度かかります。

しかし、飛脚は一人で走っていたわけではなく、宿場と呼ばれる場所まで走り、十キロメートル程度で交代していたそうです。

世界で近代郵便制度を作ったのは一八四〇年のイギリスで、料金前納制を実施し、世界最初の切手を発行しました。

日本でもイギリスの郵便制度を手本とし、明治四年（一八七一年）に前島密（まえじまひそか）によって近代郵便制度が創設されました。

現在の郵便局に当たる郵便役所が東京都と大阪府、京都府の三ヶ所に設置され、日本最初の郵便切手が発行されました。

「郵便」、「切手」、「葉書」などの名称を考えたのも前島密だといわれており、「郵便制度の父」と呼ばれ、一円切手の肖像になっています。（インターネットより参照）

Dr.江頭眞紀子による とっておきのお話しPart①

今回は、公益財団法人健和会 健和会京町病院の医師であり、「さわやか」の名誉顧問でもある江頭眞紀子先生からとっておきのお話を提供していただきましたので、ご紹介します。

慣用句

公益財団法人健和会　健和会共和病院
医師　江頭　眞紀子

『大わらわ』

ニュースでアナウンサーが言います。「人々が祭りの準備で大わらわです」

この慣用句、もとはどういう意味なのだろうといつも思っていました。

それが、見つけたのです。

平家物語、一の谷の合戦の一場面です。

源氏方の梶原源太（かじわらげんた）景季（かげすえ）が、「馬をも射させて（射られて）徒立（かちだ）ちになり、兜をもうち落とされて、大わらわに戦いなって」いるところへ、父の梶原景時が、「源太討たすなものども、景季討たすなつづけや」と駆けつけてくるのです。

わらわは幼い子供のこと、わらわ髪とはおかっぱ頭のことです。

武士はいくさの時、兜をかぶるためにまげをといて髪を下げる、それを大わらわというのです。

一の谷の合戦の一場面
（平家物語）

慣用句の意味とは

二つ以上の言葉がひとまとまりとなり、ある特別な意味を表すようになったものです。

例えば、「油を売る」という慣用句は「時間をつぶしてなまける」という意味ですが、そこにはすでに本来の「油」や「売る」の意味はありません。

いわば、「油を売る」というのは一種の「たとえ」だと言えるでしょう。

従って、本来の意味や用法を正しく理解していなければ、文意がまったく伝わらなくなる危険性もあります。

その髪を振り乱して戦う乱戦のさまを言うのでした。

『目からウロコ』

このごろよく使われる言葉ですが、これはなんと、聖書からきているのです。ご存知でした？

使徒行伝。イエスの死後、その教えを広めようとする弟子たちを迫害したのが、熱心なユダヤ教徒のサウロでした。

ある日、弟子たちを捕縛し殺害するために、息をはずませていそいでいた道で、天から光がさし、イエスの声を聞き、目が見えなくなってしまうのです。

手を引かれて旅を続け、やはりイエスの声を聞いた弟子のひとりに会います。

その弟子がサウロの上に手を置くと、「目からウロコのようなものが落ちて、見えるようになった」

その後サウロは名をパウロと改め、イエスの教えを広めて歩き、ついに殉教するのです。

『藪の中』

大企業や政治家の不祥事などで、関係者の証言がくいちがう時、ニュースでは言います。

「真相は藪の中です」

これを聞くとちょっとうれしくなります。

芥川龍之介の「藪の中」は何度も読みましたから。

慣用句といえば中国の故事が普通なのに、近代の小説の題が慣用句になっているのですから。

それは旅の夫婦が盗賊にだまされて藪の中に連れこまれ、妻は犯され夫は殺される物語です。

夫の死体を見つけた木こりの証言から始まり、捕まえられた盗賊は自分が夫を殺したと言い、妻ははずかしめをうけたので夫を殺して自分も死のうと思って死にそこねたと言い、巫女に呼び出された夫の死霊は、恥じて自ら死んだのだと言うのです。

真相はわからないまま物語は終わります。

黒沢明の「羅生門」では、殺害現場を目撃した木こり（志村喬・しむらたかし）の証言から真相が明らかになる話がつけくわえられています。

三船敏郎の盗賊、京マチ子の凌辱される女、森雅之の苦悩する夫、どれも迫真の演技でしたね。

今後も、Ｄｒ．江頭眞紀子のとっておきのお話しは、Ｐａｒｔ②・③・・・と続きます。ぜひ、お楽しみに！